

International Development Center of Japan  
**IDCJ 国際開発センター**

## 21世紀のミャンマーの教育への挑戦 ～わが国による大規模教育プロジェクトの始まり～

ミャンマーでは現在、テインセイン政権の強力なリーダーシップの下で一大教育改革が実施されています。この改革は、教育基本法や基礎教育法といった教育法規の見直しから始まり、学校制度や教育内容、指導方法や評価手法、さらには教員養成制度の改革にまで及ぶこれまでにない大規模なものとなっています。現在審議中の新しい教育法規には、「民主主義的思考」「民主主義を担う市民」といった従来の軍政下では禁句とされていた用語が散見されると同時に、「国際的視野」「国際語としての英語」「21世紀スキル」といった近年のグローバル時代を反映した用語も見られます。また、この改革では世界中のドナーからの支援を積極的に受け入れており、アジア開発銀行、世界銀行、ユニセフ、ユネスコといった国際機関のほか、イギリス、オーストラリア、デンマーク、ドイツ、ノルウェー

など先進各国がその支援に名を連ねています。わが国も例外ではありません。これまでの排他的で閉鎖的な政策を転換し、受容的で開放的な国家建設を目指し、21世紀のグローバル社会において責任ある地位を築いていこうとするミャンマー政府の意気込みが感じられます。

こうした状況の下、わが国は国際協力機構（JICA）による「ミャンマー国初等教育カリキュラム改訂プロジェクト」を今年5月から開始しました。このプロジェクトは、同国の小学校課程に含まれる全教科の教科書、指導書を一新するとともに、教員の質的改善も視野に入れた5年にわたる大型プロジェクトで、私はカリキュラム開発チームリーダーとして任務にあたっています。現行の小学校教科書は1997年の軍政下で編纂されたもので、国語、算数、理科、地理・歴史、英語、ライフスキル、道徳・公民、体育、芸術、農業といった教科目から構成されていますが、いずれにおいても愛国心と

道徳心が非常に強調された内容となっています。また、結果のみが重視され、それに至るまでの論理的で科学的な思考過程は軽視されています。児童はひたすら教科書の文面を暗記暗唱する学習を強要されてきたのです。こうした現状を改善し、同国が新しい時代の中で重視しようとしている物事を深く考え、自分で判断し行動できる学習者の育成を支援していこうというのです。

プロジェクトに携わるメンバーは、日本側が教育開発コンサルタント、大学教授、教科書出版社や研究所から選ばれた専門家30名、ミャンマー側が教育省の専門官、全国の教育大学及び小中高校から選抜された優秀な教員50名から構成されています。日々の活動は、教科ごとの小グループに分かれ、同国の教科書分析や我が国及び諸外国の教科書内容の理解から始まり、新カリキュラムにおける各教科の学



ミャンマーの社会科専門官と筆者(2014年7月)

習のねらい、能力やスキルの習得、具体的な学習内容の精選と配列などについて一つひとつ慎重に話し合いながら決定しています。議論の中で、時として「批判的思考力」「コンピテンシー」「グローバル的視野」「世界市民としての自覚」といった用語やそれに関する内容がミャンマー側専門官から提案されることがあり、彼らの知識と能力の高さに驚かされるばかりです。

まだ始まったばかりで、これから困難な課題や問題が待ち受けているかもしれませんが、それにも増してミャンマー社会に限りなく湧き上がってくる凄まじいまでのパワーと同国教育関係者の教育改革に対する強い志を目の当たりにして、私はミャンマーのこの教育への挑戦が新しい時代を創造していく大きな一歩となることを確信してやみません。 (文責：国際開発センター ●●●●● ●●●●●)

本件は独立行政法人国際協力機構(JICA)から業務委託を受けた(株)バデコ、教育出版(株)、及び弊社の3社からなる共同企業体によって実施されている。